

変更概要

本年4月30日、**国連安保理がUNMISSのマンデートを1年間延長**したところ、これに合わせて**我が国要員の派遣期間についても1年間延長**。2027年6月30日を期限とする。

1. 派遣の経緯及び実績

- UNMISS設立の安保理決議の採択を受け、国連から我が国に対して要員の派遣の要請があり、**2011年11月**、国際平和協力法に基づき、UNMISS司令部要員として、**自衛官の派遣を閣議決定**。同年12月から現地で活動開始。（※現在、第17次隊が活動中）
- 2012年1月から2017年5月末まで、**自衛隊の施設部隊が派遣され、道路等のインフラ整備の活動を実施**。
- 2026年3月、国連による**UNMISS参謀長ポスト**の選考に自衛官が**合格**。4月に派遣のための閣議決定等の国内における手続を実施し、5月に国連職員としてUNMISS司令部へ赴任。

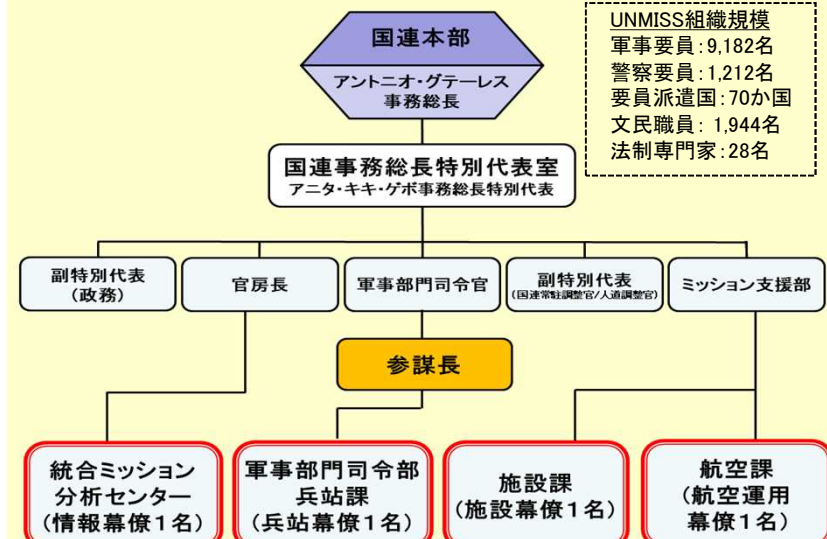
2. 派遣の意義

- UNMISSは、現在、我が国が要員派遣している**唯一の国連PKO**であり、国連による平和のための努力への関与の継続のため、要員派遣は重要。
- 国際分野における**人材育成機会の確保**と国際平和協力分野の知見・経験蓄積にも資する。

3. 今後の予定

- 本年6月中下旬、実施計画及び実施の状況について閣議決定・国会報告を予定。

日本の要員の配置状況



国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)派遣の概要

1. UNMISS(United Nations Mission in the Republic of South Sudan)の概要

- 平成23年(2011年)7月、国連安保理は、平和と安全の定着及び南スーダン共和国における発展のための環境の構築の支援を任務とする国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)の設立を決定。南スーダン共和国の独立とともにUNMISSを設立。
- 安保理決議第2820号(2026年4月30日採択)により、
 - ・ マンデート期間を2026年4月30日までから**2027年4月30日まで延長**することを決定。
 - ・ マンデートの主要項目は維持された一方、**細部内容は一部見直しまたは簡素化**。
 - ①文民保護(細部内容:効率性追求(科学技術利用)が追加。)
 - ②人道支援実施に資する環境作り(細部内容:変更なし。)
 - ③再活性化衝突解決合意及び和平プロセス履行支援(細部内容:選挙等支援削除、監視・報告に限定。)
 - ④国際人道法違反及び人権侵害に関する監視、調査及び報告(細部内容:変更なし。)
 - ・ マンデート内容見直しに伴い**一部定員削減**。(軍事要員定数:17000人→12500人)
- 細部内容の変更はありつつも、現状、我が国司令部要員への影響はなし。

2. 我が国要員派遣の現状

- 平成23年(2011年)11月から、我が国は、UNMISS司令部要員及び連絡調整要員の派遣を開始。司令部要員は、**首都ジュバ**において、**兵站、情報、施設、航空運用**幕僚として、**現在は4名**が勤務。
- また、1名の連絡調整要員が在南スーダン日本国大使館内において勤務。
- 地方の一部では、武力衝突や殺傷事件が散発的に発生するなど、情勢は必ずしも安定していないが、**ジュバ市及び周辺は基本的に平穏。参加5原則は維持**された状態。

南スーダン情勢概要

1. 一般情勢

- 2011年、スーダンから独立。2013年と2016年の2度の内部衝突後、2018年9月に、再活性化された衝突解決合意（R-ARCSS:以下、和平合意）が成立。
- 2020年2月にはキール大統領、マシャール第一副大統領等から構成される暫定政府が成立するも、当事者間（キール大統領派とマシャール第一副大統領派）対立が継続。
- 2024年9月、選挙準備や統一軍編成・配備等遅延に伴い、**2027年2月までの合意期限2年延長**が決定（選挙は2026年12月を予定）。
- **2025年3月、当事者間対立により、情勢が緊迫。**上ナイル州で民兵（のちにマシャール派と判明）と暫定政府軍が衝突した際、UNMISSへが政府軍の退避行動支援中に銃撃され、**国連要員が1名死亡**（政府軍司令官等含む）。
- 上記を受け、**マシャール第一副大統領等の自宅軟禁が開始され、マシャール派は、これをR-ARCSS違反と反発する**一方、暫定指導部立ち上げ等、内部対立も発生。2025年9月には同副大統領等8名に対して**特別裁判**が開始。
- 2026年5月現在も裁判が継続中であるほか、地方では部族間、時として暫定政府軍との間で衝突が継続。
(ジュバ市内～周辺では確認されていない)



2. 他国の対応

- 2025年3月の事案に対して、**米英仏独蘭等が現地大使館ベースで強い懸念を表明し、態勢を縮小。**
- 以降、欧米及びアフリカ各国がマシャール派解放、政治対話による緊張緩和、人道支援関係者・施設への攻撃停止を継続的に喚起。AU及び一部の国は事態打開に向け特使を派遣。
- 国連事務総長も和平合意が危機にあるとし、緊張緩和を呼びかけ。

3. 我が国の対応・情勢認識

- 2025年3月、情勢悪化を受けて、南スーダン全土をレベル4（ジュバ市含む）とし、**退避希望邦人全員（含、JICA職員および経協事業関係者）の退避を完了。**在南スーダン日本大使館も、当時は縮小態勢としたが、2026年5月現在は通常の体制。
- 様々な機会を通じ、マシャール派の解放、政治対話を通じた緊張緩和、人道支援関係者・施設への攻撃の停止を呼びかけ。
- 2026年5月現在、現地情勢は従来認識に変更なく、情勢は必ずしも安定していないが、**ジュバ市及び周辺は引き続き、基本的に平穏**であり、紛争当事者は存在せず、新たな武力紛争は発生していないと評価。**3**

司令部要員（4名）の活動

参考1

司令部要員		個人の業務	【参考】所属部署の任務
<p>兵站幕僚 (安積3佐)</p> 	<p>UNMISSの活動に必要な物資の輸送、保管などの調整業務を実施。3つのうち1つのセクターの後方支援計画の主担当。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●軍事部門司令部兵站課(約5名) ●UNMISSの3つのセクターに対する全ての後方支援(調達、輸送、保管、修理など)の計画を担当。 	
<p>情報幕僚 (岩崎3佐)</p> 	<p>南スーダンの治安情勢に係る情報の収集・整理のほか、1日100件以上のレポートのデータベース管理、情報分析の業務を実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●統合ミッション分析センター(約25名) ●治安情勢等について、中長期的に分析を行い、UNMISS特別代表等に提供。 	
<p>施設幕僚 (菊地3佐)</p> 	<p>UNMISSの施設作業に係る企画・立案のうち、年間約2000kmの道路整備計画などの立案、調整。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ミッション支援部施設課軍事工兵セル(2名) ●UNMISSの施設作業に関わる計画を立案し、各工兵隊に任務を付与。作業重複を防ぐため南スーダン政府や他の国際機関とも調整。 	
<p>航空運用幕僚 (中村3佐)</p> 	<p>UNMISSが運航する航空機の飛行計画のうち、年間約1000件の飛行計画の作成。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ミッション支援部航空課運用班(約10名) ●UNMISSが運航する定期便、特別便などの日々の運航計画の作成のほか、飛行安全の管理。 	

司令部要員の生活環境、他国との交流

参考2

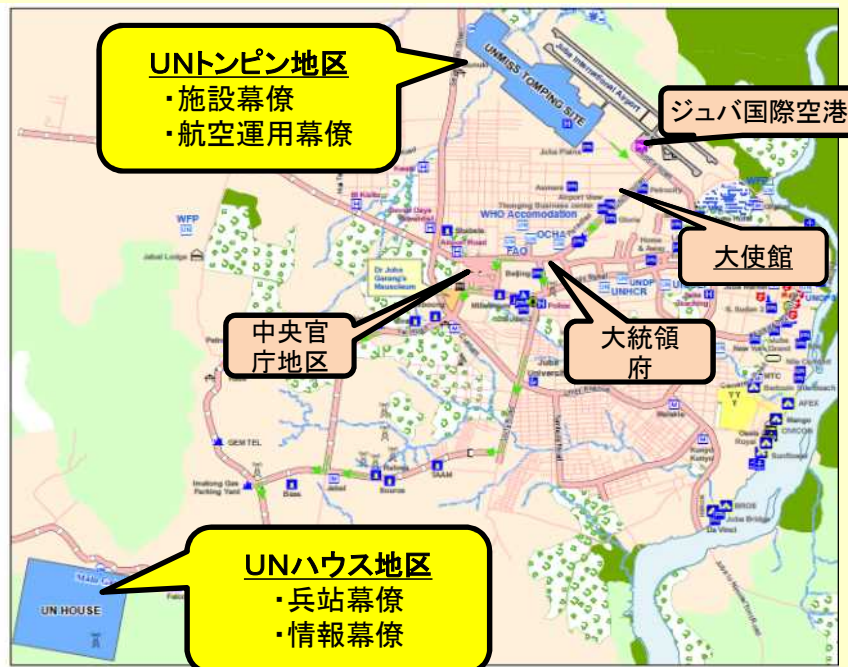
宿舎



食事(自炊)



○勤務・居住場所(ジュバ市内)



インド隊の春の祭典行事



タイ及びカナダ隊と夕食



ネパール隊の春の祭典行事



兵站・航空運用幕僚歓迎会



ルワンダ隊マルパレード



有志によるサッカー大会

